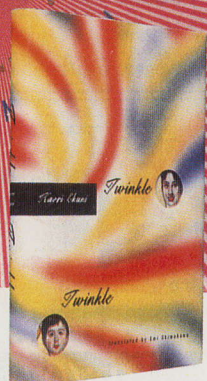
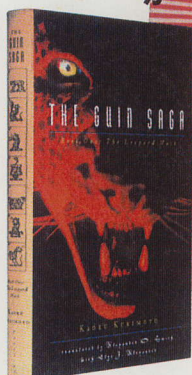


# ニッポンの小説をアメリカへ!

## バーティカル社の 熱いチャレンジ

日本では数え切れないほど翻訳小説が出版されているのに、世界で紹介されている日本小説はごく少ない。そんな現状を「日本のすばらしい小説を世界に紹介したい」という熱意でブチ破ろうとする出版社・バーティカル社がNYに設立された。日本の小説がどんなムーヴメントを呼び起こすか、これから注目だ!

取材・文/神無月マキナ  
撮影/勝尾仁(北方氏)、早坂卓也(鈴木氏)、田部雅生(酒井氏)



**日本の小説を世界へ!  
野望を実現する、  
最強の布陣**

日本の小説家といえばミシマにカワバタ。現代作家なら村上春樹によしもとはなが知られているぐらい。世界中の小説が日本語に訳され、出版されている翻訳大国日本からは考えられないが、アメリカにおける日本作家の認知度は信じられないほど低い。理由は簡単。ほとんど英語に訳されていないからだ。一部の純文学はまだしも、エンターテインメントやノンフィクションの「輸出」は出版界では未開拓の領域なのだ。

だがもちろん、日本の小説が劣っているわけではない。アイデアの斬新さ、ストーリーリングの巧みさ、人物描写の深さ、どの点をとって見ても、世界の傑作群と肩を並べるものだ。ならば「本当に面白い日本の小説をアメリカに輸出してやろう!」と設立された



**酒井弘樹**  
バーティカル社社長。日本経済新聞社、日経BP社を経て、1998年渡米。

出版社がバーティカル社。NYを本拠地に、今年の春から最初のラインナップを刊行し始めた。そのタイトルは、鈴木光司「リング」(英訳タイトル「RING」)、北方謙三「棒の哀しみ」(「Ashes」、江國香織「きらきらひかる」(「Twinkle Twinkle」、栗本薫「グイン・サーガ」(「THE GUN SAGA」)。秋には、手塚治虫の漫画「ブッダ」を刊行、と錚々たるメンツがラインナップされている。

とはいえ、日本では有名な作家もアメリカでは「新人」作家。無謀とも思えるチャレンジだが、バーティカル社の酒井弘樹社長は「アメリカで出して

も競争力のある作品を、自信をもって送り出した」と言う。その自信を支えているのが、同社の編集長イオアニス・メンザス氏。作品選択と英訳のクオリティ・コントロールを担当する日系ギリシア人のメンザス氏は、プリンストン大学を首席で卒業後、コロンドン

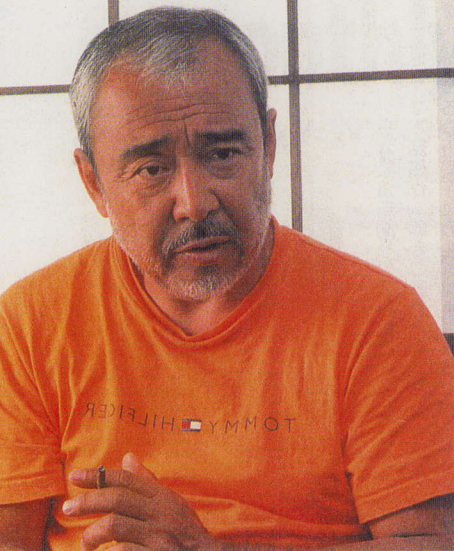


**イオアニス・メンザス**  
バーティカル社編集長。プリンストン大学卒業、ペンシルバニア大学の博士課程修了。

ア大学の博士過程で比較文学を専攻した人物で、斯界では熱い注目を浴びる若き天才。日本文学・文化に通じているのはもちろんのこと、日本の面白い小説をアメリカに紹介したいという彼の情熱は酒井社長にも負けない。メンザス編集長の参入によって本格的に始動したバーティカル社は、さらに彼の紹介でハーバード・ロースクール出身の法律家マイカ・バーチ氏がマーケティング担当となり、ビジネス的にも強力な布陣となった。そして全米の出版界を驚かせたのが、アートディレクターにチップ・キッド氏を迎えたことだ。80年代後半から90年代にかけて、アメリカのブックデザイン界に革命を起こしたキッド氏は「バットマン」や「スーパーマン」の装丁でも知られるコミック愛好者。日本の漫画文化にも関心があり、尊敬する手塚作品の装丁を手がけられることが彼にとって大きなモチベーションとなったようだ。「すべてを動かすのは作品の力」と酒井社長は言う。面白い小説に国籍はかかれない。最強の協力者たちを得て、日本の小説を世界へ広める挑戦が始まった。



**チップ・キッド**  
バーティカル社アートディレクター。80年代後半から、本の装丁の第一人者として著名。



きたかた・けんぞう●1947年、佐賀県生まれ。中央大学法学部卒業。83年『甲鐘はるかなり』で注目を浴び、翌年『眠りなき夜』で日本冒険小説協会大賞、吉川英治文学新人賞受賞。91年『破軍の星』で柴田錬三郎賞受賞。

### <北方謙三新刊情報>

#### 『鬼哭の剣』

北方謙三  
新潮社  
1800円



日向流の剣豪・日向景一郎シリーズ第4弾。「父を斬れ」謎めいた祖父の遺言を守り、道場破りを重ねた果てに宿命の父子対決を終えた猛者・景一郎。本作では弟・森之助と共に柳生一族の刺客と立ち会いを繰り広げる。

「映画版のハリウッドリメイク。翻訳の話はなかつたのだから。」

「僕が海外で付けられたキャッチフレーズは、日本のステイ

### <鈴木光司新刊情報>

#### 『神々のプロムナード』

鈴木光司  
講談社 1900円



夕方、TVをつけっぱなしで会社員が消えた。そのTV番組に関係した人間の失踪が続発。奇怪な事件が相次ぐが、背後には新興宗教の教祖の影と邪悪な陰謀がちらついていた……。現代の混沌を衝くミステリー大作。

数ある北方作品の中から、最新作でもメガヒットシリーズでもない『樺の哀しみ』を選んだパーティカル社のセンスに、北方さんは感心したという。「俺の小説は系列がいくつあってもいい。『樺の哀しみ』は意

酒井社長は、年来の北方文学愛読者。また、同社の編集長であるイオアニス・メンザス氏も熱狂的な北方ファンなのだという。「すばらしい小説を皆に読んでもらいたい。そんな

か、楽しみだね」

「それは感慨深いですよ。学生

「僕が海外で付けられたキャッチ

「僕が海外で付けられたキャッチ

## 北方謙三インタビュー

### 作品セレクトも英訳も、どちらもすばらしい。どう読まれるか、楽しみだね

「編集長のイオアニスくん、俺はや二つ呼んで呼んでるんだけど、非常に優秀な奴だよ。見た目はどこのヒッピーかと思うけどな(笑)。俺の小説は全部読んでいて、『樺の哀しみ』の次は『冬の眠り』、その次は『いつか時が汝を』を訳したいと、もっ決めてるんだ。いつかは、自分で『三国志』を訳したいと言ってる」

英訳タイトルは『Adhes』。翻訳の完成度にも驚いたという。「英語圏の人間からすると複数形の『Ashes』ってのは実に多くのイメージを喚起する単語らしいんだ。凄くいいタイトルだよな。俺、このタイトルで長編小説を書くかと思つたよ(笑)。今まで見た英訳って、素人の俺が一見してヒドイとわかるものばかりだったけど、これは違つて。どう読まれるか、楽しみだね」

## 鈴木光司インタビュー

### ひとりでも多くの人に読んでほしいから、アメリカでの出版は貴重なチャンスですね

「僕が海外で付けられたキャッチ

「僕が海外で付けられたキャッチ

すずき・こうじ●1957年、浜松市生まれ。慶応大学文学部仏文科卒業。90年『英國』で第2回日本ファンタジーノベル大賞優秀賞を受賞。91年『リング』で圧倒的な評価を得る。その続編『らせん』で吉川英治文学新人賞受賞。



パーティカル社の創刊ラインナップに名を連ねるお二人に、パーティカル社のクオリティの高さと、アメリカでの出版に対する期待を伺った。

# 参戦作家が語るパーティカル社なら行ける!

### 酒井弘樹社長 インタビュー



英訳されていない、日本の優れた小説は無尽蔵。かならずアメリカの読者のニーズに応えられる

日本経済新聞社の書籍編集者として、話題作『覇者の誤算』や『おごるな上司!』の企画編集に携わった酒井弘樹氏。98年の夏以降、本拠地をNYに移した酒井氏は、99年「世界に通用する日本の現代作家をアメリカで紹介したい!」という熱意から出版会社パーティカル社を設立。そんな酒井氏に抱負と今後の展開を聞いた。

「当初、日本の優れた作家をアメリカの出版社に売り込みたいとは思っていましたが、自分で出版社をやるとはありませんでした。しかし、いざ売り込むとなると、米国内市場で競争力のある作品選びや翻訳の品質管理など、膨大な知識と高い教養が必要であることがわかった。私では最終的な判断ができません。私ではそんなとき、コロンビア大学の博士課程を終えたばかりのイオアニス・メンザス君と出会った。高い能力を評価されながらも大学に残ることに意味を見いだせずにいた彼と僕は、優れた日本作家をアメリカで紹介するという共通の目的、ヴィジョンを共有できた。それで出版社をやるうと決意したんです」

パーティカル社のデビュー・ライオンナップは『リング』(4月刊行)、『さらさらひかる』(5月刊行)、『棒の哀しみ』、『グイン・サーガ』(2冊とも6月刊行)。これらの作品を選んだ

「いずれも普遍的なテーマ性があり、構成力が確かで英語圏で競争力のあ作品だからです。イオアニス君とも話したのですが、アメリカで受けるポイントが構成員。視覚的で物語展開がはつきりしている作品が読者を獲得する。また日本社会や文化に基礎知識がなくても読める作品を選びました。作家については多数の著作がある人。第一作を出して知名度を得た後、次に別の作品を出して展開できるからです」

アメリカでは新参の出版社であり、新人扱いの作家たちを出していく。勝算はあるのだろうか? 「現在、アメリカの出版界は日本より新人が出にくい状況です。新人賞もないし文芸誌もない。書いた原稿をリテラリー・エージェントに持ち込んで出版社から出してもらおうし手段がありません。しかも、大手出版社による市場の寡占化が進み、ベストセラー狙いの作品ばかり大部数が出る。でも本当に小説好きの人たちは新しい小説を求めているはずなんです。そんな読者のニーズに応える自信はあります。日本の優れた小説で未訳の作品ストックは無尽蔵。それを一手にプロデュースして紹介できるわけですから」



#### 『Ashes』

絶望したかのような男の顔が描かれた本体に、二重にオビが巻かれている。書名・著者名の文字は、バーに入り浸る主人公がナプキンに書いた文字が、酒でにじんでいるイメージだという。



#### 『リング』

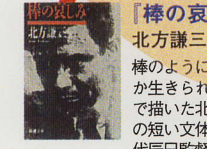
鈴木光司 角川ホラー文庫 540円

同日同時刻に謎の死を遂げた4人の男女。記者・浅川は姪の死に不審を抱き調査を始める。そして事件の裏側に、「見た者は一週間後に死ぬ」という呪われたビデオテープがあることを突き止める。言わずと知れた、日本ホラー小説の金字塔。



#### 『RING』

透明なカバーに、輪のように書名・著者名を配置。どこか日章旗を思わせる赤い模様を中心に、象徴的な顔が描かれている。読者の目を眩ませ、異界へ吸い込むような装丁だ。



#### 『棒の哀しみ』

北方謙三 新潮文庫 438円

棒のように生き棒のように死ぬ。やくざ者としてしが生きられぬ男の哀しみを乾いた詩情と硬質な文体で描いた北方ハードボイルド初期の連作短編集。息の短い文体は刃物のような緊張感に満ちている。神代辰巳監督、奥田瑛二主演で映画化もされた。

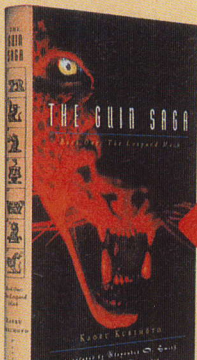
英語が読めなくても買いたくなる!  
パーティカル社のブックデザイン

アメリカの装丁家としては第一人者であるチップ・キッド。彼が手がけたパーティカル社の装丁は、

本好きにはたまらない魅力を放っている。紀伊國屋書店(洋書取り扱い店舗)やAmazon.co.jp、楽天ブックス、bk1などオンライン書店で購入可能。アクセスしては?

#### 『THE GUIN SAGA Book One: The Leopard Mask』

豹の模様の写真を使った表紙。不気味でいて鮮烈な色合いが物語への興味をそそり、布貼りの重厚な本体が壮大な世界観を予感させる、正統派の装丁といえよう。次巻以降も楽しみだ。



#### 『豹頭の仮面 グイン・サーガ1』

栗本 薫 ハヤカワ文庫 540円

中原の王国パロは新興モンゴルの侵略に一夜にして滅び、王家の血をひく双子の姉弟は辺境の森に逃れた。突然現れて双子を捜すから救ったのは、豹頭人身の怪人だった……著者のライフワークと

#### 『Twinkle Twinkle』

本体に描かれたたくさんの顔の一部が、カバーに開けられた穴から見える。一見ふつつ、でもアル中だったり同性愛者だったりする登場人物



#### 『さらさらひかる』

江國香織 新潮文庫 400円

アル中の笑子と、ゲイで恋人ありの睦月は、すべてを許し合って結婚した、はずだったが……。セックスレスの夫婦関係のなかから浮かび上がる、誠実、友情、恋愛とは?